

## 2014年2年学年合宿記録

期間：11月1日～11月2日

山域：福智山地

参加者：村松弾（L）、永田拳吾、松村大輔

<1日目>

10：40 採銅所駅発  
12：00 牛斬山  
13：20 赤牟田の辻（旧：焼立山）  
13：40 分岐  
13：50 左の分岐路から引き返す  
14：05 分岐  
14：30 右の分岐路から引き返す  
15：10 赤牟田の辻（旧：焼立山）  
15：20 焼立山  
16：10 頂吉分れ  
16：50 福智山  
17：00 荒宿荘

7：35学研発の電車の1号車に集合し、博多で乗り換え、10：30採銅所駅に着いた。ちょうど雨が降り出したので、駅でレインウェアに着替えて出発。雨で湿度が高いせいかとにかく暑い。汗だくになりながら登り12：00牛斬山に着く。ここから縦走路が始まるのだが、人があまり通らないせいか藪のひどい箇所がいくつもあった。生い茂ったススキやササをかき分けながら進む。その反面、防火帯の縦走路は歩きやすかった。13：20「赤牟田の辻」に到着。頂上の看板には（旧：焼立山）という但し書きがあったのだがその時は気にも留めなかった。そのまま直進し広い防火帯の急坂を下ると分岐が現れたのだが、木にかけてあった案内板が妙だった。左の分岐は「伊方」、右の分岐は「広域林道2号線」と書いてあったのだが、伊方は麓の地名で、林道に至っては地図にも書いていない。仕方なく左に行ってみるがすぐに下山路だと分かり引き返す。今度は右に行ってみるが、道が荒れていてルートファインディングが難しく、明らかにおかしいということになり再び引き返す。分岐に戻り、コンパスで方角を確認すると南西を向いていた。地図を見る限り、赤牟田

の辻から南西に派生する尾根は無いはずなのだが・・・。どうしようもないので「赤牟田の辻」に登り返し、頂上から少し下ると来た道とは違う道があったのでそちらへ進む。10分ほどすると、「焼立山」の看板がある頂上に着いた。地図では焼立山の次に赤牟田の辻を通るはずである。頂上の北東の急坂がおそらく念仏坂であろうから、これが地図上の「赤牟田の辻」だろう。全員頭に？を浮かべながらも、時間がないので先を急いだ。福智山山頂に近づくと風雨が強くなり、山頂はまるで台風の中にいるようだった。すぐに下り、17:00 荒宿荘に到着。コースのミスと悪天候で非常に疲れた。小屋は貸し切りで広く使えた。その夜の鍋とお米はとても美味かった。(村松)

(コースミスについて)

地図の「赤牟田の辻」「焼立山」と現地の看板が逆になっている理由についてだが、地図の発行後に両者の名前が入れ替わった可能性がある。その証拠に赤牟田の辻の看板には(旧:焼立山)の但し書きがあった。また、看板もかなり新しいもののようであった。私たちが間違えて下ったのは、地図の焼立山、すなわち現在の赤牟田の辻から南西に派生する尾根だったのだろう(下図)。



< 2 日目 >

0630 起床  
0730 出発  
0815 山瀬越  
0850 尺岳  
0940 田代別れ  
1020 観音越  
1110 白畑山  
1150 市之瀬峠  
1310 皿倉山  
1410 下山口

朝食にうどんを多めの水で茹でてみるが、それでも塩辛い。やはりうどんは茹で汁の処分に困るから、今後は控えよう。幸い出発時には雨は止んでおり、途中ばらばらと雨が降ることはあったが晴れ間が差すことさえあった。小屋を出てからは単調な下り坂が続き、昨日よりも早めのペースで歩いていた。今日は、何人かの登山客ともすれ違った。昨日の雨が降ったせいか、ヒキガエルが登山道沿いで跳ねているのが見られた。尺岳以降は緩やかなアップダウンが続く。観音越を過ぎたあたりからは比較的道が乾いていたように思う。このあたりから徐々に上りが増えてきた。昨日と比べ道は良いのだが、しばらく山を登っていなかったせいか、上りでは少し息があがった。市之瀬峠から最後の急坂を登る。上り 45 分、下り 40 分のコースタイムらしいが、どう考えてもそんなやわな傾斜ではないと思う。コースタイム詐欺も甚だしい。とはいえ、昨日のぬかるんだ斜面に比べれば登りやすい、宝満山を思い出させる上りだ。この上りを抜けると、皿倉平までは砂利道が続き、縦走の終わりを感じさせられる。が、皿倉平から山頂までは地味に階段が続き、何だか騙されたように感じた。皿倉山山頂はかなり風が強く、到着後はすぐに服を着込んだ。あまり天気は良くないにもかかわらず、山頂では観光客が多く見られた。皿倉山は観光地として整備が進んでおり、山頂までロープウェイが引かれている。疲労していた我々は有難くロープウェイを使わせてもらい、そのまま八幡駅まで下った。下山にロープウェイを使うのは甘えではないかとも思ったが、駅に着いた直後から雨が降り始めて来たため、この判断は間違いではなかったのだと誰に取り繕うわけでもなく思った。(永田)

< 個人の反省と感想 >

(村松) 今回はコースのミスというハプニングがあった。地図と看板に混乱さ

せられたのが原因ではあったが、分岐に着いた時点で不審に思い方角を確認していればすぐに気付けたかもしれない。そこはリーダーとして反省すべき点だろう。それ以降は問題なく縦走を続けることができた。

今回の件に関して、地図には訂正を入れておくが、他の山で同じようなことが起こらないとも限らないので、古い版の地図は新しいものに買い替えるということも必要かもしれない。

(松村)

反省

まずは、マットを忘れた。小屋に泊まるのであまり問題なかったが忘れたら大問題なものだったら危なかった。あと、今回の合宿の朝夜の食料を担当したが、朝食にうどんをしたのだが、塩辛いゆで汁の処理という結構難題がでてきたので、これの解決法が見つかるまではうどんはしない。うどん用に揚げたまを準備したのだがメンバーの一人がエビとかの海鮮物がダメだったのに、原材料にエビが入っていたのを気づかなかった。10月は足に問題があって活動に参加できなかったから、体力、持久力がとことん低下していて、2年の2人に遅れることがあった。

感想

やはり鍋はおいしかった。今回の鍋キューブはいつものやつじゃなくて濃厚白湯(パイタン)スープにしてみたが良かった。うどんは合宿ではゆで汁をどうにかしない限りもうしない。かなり塩辛かった。身体がなまっていてきつかった。登りでは特に階段状ではなくてスロープのようになっている所がかなり足に負担がきて、立ち止まったりすることが多かった。

レインウェアはきちんと下の衣服を出さないように着ないと、濡れてしまい、乾かなかった場合、次の日の朝に冷たいまま着ないといけなかったのでちゃんととけばよかった。

(永田)

シュラフカバーを持ってきていなかったこと。今回の合宿では1泊のみ、それも小屋宿泊のため必要ではないと思ったが、万一のビバークのことを考えると、持ってきておいたほうが良かったと感じた。また、しばらく歩荷をしていなかったせいか、体力不足を感じる場面が多かった。来年度の背振全山縦走(未定)の際にはしっかりと体力をつけて臨みたいと思う。今回の合宿では天気があまり良くなかったのは残念ではあるが、紅葉などの景色を楽しむことが出来たのは良かった。